

「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	鹿屋市平和学習ガイド・調査員連絡会
日時	平成 28 年 5 月 20 日(金) 13 時 30 分から 15 時まで
場所	鹿屋市役所 庁議室
参加者	(迫 睦子 他 7 名)
	市長、商工観光振興監、ふるさとPR課長、ふるさとPR課主任
<p>1 市長あいさつ</p> <p>2 (提案1) 戦跡関連パネルの常設展示について</p> <p>3 (提案2) 戦争遺跡の整備について</p> <p>4 (提案3) 鹿屋市民や子どもたちへの平和学習について</p> <p>5 (その他) 観光施策等について</p>	
<p>市長あいさつ：昨年度初めて皆様を鹿屋平和学習ガイド・戦争遺跡調査員として認定させていただいた。この1年間旅行ツアーや教育旅行の生徒さんなど多くの方を現地案内していただき、非常に高い評価を得ている。ここ鹿屋から平和を発信したいという思いで始めたわけだが、一定の成果があったと思っている。</p> <p>昨年度は川東掩体壕と地下壕第一電信室を整備したところであり、今年度も別な戦跡の整備を予定している。戦跡の整備・活用については少しずつ時間を掛けて取組んでいきたい。今後は収集した資料をどのように残していくべきか整理をして成果を出していきたいと思っているので、皆さんの経験談を踏まえて知恵を拝借できればありがたい。</p> <p>代表者あいさつ：戦後70年の昨年度は、おかげさまで多くの方を案内することができた。また、市で戦跡整備や特別企画展、ウォーキング大会を開催するなど、多くの事業に取り組んでいただき感謝している。これらをとおして市民に広く訴えることができたほか、ガイドとしても勉強になった。戦後70年の年は終わったが、今後も多くの人に対し語りかけを行い、修学旅行など平和学習を提供する機会を増やせればと思っている。今年1月からは「鹿屋市平和学習ガイド・調査員連絡会」を結成し、現地調査や戦争体験談の聞き取りなど活動を行っている。</p> <p>提案1：戦後70年に市や調査員が制作・収集した戦史関連のパネルや資料について、常設展示し多くの方に見てもらいたい。</p> <p>市長：戦史パネルを寝かしておくのはもったいない。パネルの巡回展示を行うほか、例えば串良の地下壕などで来訪者向けの展示を行うなど充実を図ってもよいと思う。</p> <p>提案2：今後戦跡を整備する際、案内板等にARで映像が流れるなどの仕掛けをしても面白いのではないか。また、新生町に残る第五航空艦隊司令部壕は特攻作戦の指揮が執られた一級の戦争遺跡であるため、後世に遺すための保存や期間限定での公開などの取り組みはできないか。</p>	

市長：戦跡の整備にあたっては、当時の状況を思い浮かべることができるような工夫をしていきたい。例えば野里国民学校跡には国旗掲揚台の一部が残っている。ここは戦時中、校舎があり、特攻隊員が最後の1日を過ごしていたと聞いている。校舎の復元は難しいが、往時が偲ばれるような写真やイメージ図などを使い、目を閉じれば当時の風景が浮かぶような展示案内ができればと思っている。鹿屋には鹿屋会談から金浜海岸の進駐軍上陸まで、独自のストーリーがあるのでそれを生かしながらの整備をしていきたい。

AR等の新しい機能を活用するのは面白い。インターネットを見れない高齢者向けの手法も合わせて行いたい。

第五航空艦隊司令部壕については素堀り部分があるため、今のままでは安全上入ることができない。すでに埋め戻ししている部分もある。入口くらいは保存整備ができるかもしれないが、新しくコンクリートで補強してまでお客様を中に入れるかという、少し違う気もする。壕の概要を説明できる案内板の設置や駐車場の確保は検討したい。皆さんから保存に対する意見があったというのは受け止めさせていただく。事務局とまた話をしてもらいたい。

提案3：鹿屋の歴史や戦跡について、地元の人にももっと知ってほしい。鹿屋市内の小中学校にも地元での平和学習を推奨してほしい。大分県宇佐市では小学生が来訪者に戦跡ガイドを行う事例もある。

市長：子どもへの平和学習は素晴らしいことである。鹿屋の戦史や戦跡・体験談をまとめた子どもたち向けの副読本のようなものを作っても良い。この件は教育委員会にも話してみたい。子どもたちの心の中に平和の尊さを植えつけていければと思う。10～20年続けていくまちづくりとして考えている。

その他：鹿屋の観光案内所がない。

市長：本来であればリナシティあたりに観光案内所があればよいのだが、直接駐車できるスペースがない。SARRUGAに観光案内所機能を一部担わせるか。白水町にできた「なないろステーション」もあるが、職員が常駐していないのがネックである。

その他：鹿屋市観光物産総合センター内に資料収集の拠点を兼ねた常設展示スペースが設置できないか。収集している戦争体験談等の保管と整理・アーカイブ化にも取り組みやすくなる。また1階の売店・レストランも充実してほしい。

市長：鹿屋航空基地史料館は資料の内容・量は一級だが、資料がありすぎて整理されていないイメージがある。集めている資料等を巡回企画展で展示していくのは賛成だが、史料館があるのに隣接する観光物産センターに常設館をつくるのはどうかと思う。

その他：お客様を案内していて困ることは、トイレがある施設が少ないこと。

市長：確かにトイレは必要であるが、トイレ整備は馬鹿にできないほど設置費と維持管理費がかかる。全ての観光地にトイレを設置することは難しいが、拠点となる場所に必要なら教えてほしい。

その他：名貴町の水源池近くの防空壕には、戦時中に旧陸軍が駐屯していたといわれている。以前は水源池周辺を公園化する計画があった。

市長：昔の整備計画の話は確認をしないとわからないが、地域の総意として整備に対する要望が出てくるのであれば、話を聞きたい。

その他：戦跡だけでなく旧国鉄跡や焼酎蔵などの知識を持つ鹿屋の観光ガイドが養成できたら、まち歩きや城めぐり、廃線跡でのウォーキング大会などのイベントの企画ができるのではないかな。

市長：観光ガイドがいる市町もあるが、浅く広くの知識ではなく深く専門的なガイドが求められているのではないかな。3団体を統合した鹿屋市観光協会を、様々な分野をコーディネートできるような団体にしたい。なお、海岸線のエリアについては、県の事業を活用しながらの整備を検討している。

市長総括：今日は非常に勉強させていただいた。皆さんの志が高いことを意気を感じ、力強く思っている。鹿屋の市長としては、特攻の町という事実を今後も伝えていきたい。そのために何ができるのか。1～2年で済むものではない。来年に向けて、ひとつでもふたつでも前に進めていければいいと思う。